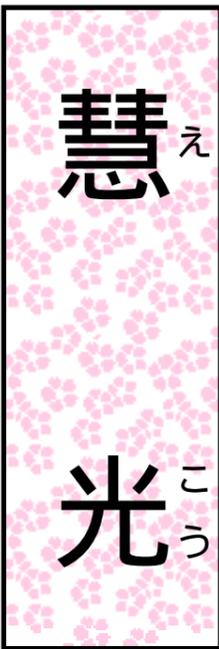




鞍中最後の体育祭 応援にも熱が入ります (9月13日撮影)



金光寺寺報  
第172号  
発行所 金光寺  
宮崎県西臼杵郡  
五ヶ瀬町大字鞍岡  
5927番地  
0982  
83-2338

今月のことば

世俗の論理の 行き詰まることを 教えるのが仏法

世俗の論理とは、私たちの日常生活での論理ということ。では、仏教は何を課題とする教えなのでしょう。

老・病・死は、私たちにとって代表的な不幸です。なぜなら私たちが社会で築き上げてきた財産や地位や名誉など、あらゆるものを根こそぎ損ねてしまうからです。そうした不安定なものは、私たちの究極的依り所にはなり得ません。ところが私たちは、老・病・死の厳しい現実になかなか心を向けることができません。「私が、私が」と他人を押しつけ、ようやく望みを叶えても、世俗の論理の中で得た幸せは、老・病・死によって、結局は失われてしまいます。

仏教は、煩惱に根ざす世俗の論理を明らかにし、それを乗り越えていく教えなのです。

阿彌陀如来は、私たちが根深い煩惱を抱えて

いることを見抜いておられます。そして、世俗の論理の中で苦悩を深める私たちこそ、救わずにはおれないとはたらいてくださっています。

私たちは底なしの愚かさを抱えています。そのような愚者に向けられた「南無阿彌陀仏」を依り所として生きるよりほかありません。阿彌陀如来の智慧と慈悲が込められたお名号「南無阿彌陀仏」は、世俗の論理が行き詰まることを私たちに知らせるはたらきです。そして世俗の論理に迷う私たちを救おうとする、真実の喚び声であるのです。

世俗の論理に合わせ、都合よく仏法を受け止めるのではなく、仏法を中心に、仏法に合わせ世俗での生き方を考え直さなければなりません。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

2016 (平成28)年

1 月

29日(金) 終日

2 月

20日(日) 終日



ホームページ開いています。  
URL <http://konkhoji.jp/>  
10月5日現在 アクセス数 76,363人

表紙の写真如何ですか？先月十三日、鞍岡中学校最後の体育祭に行きました。これで最後かと思うと何とも言えない想いがわき起こりました。来年からはこの生徒の喚声を聞くことができませぬ。あらためて、母校が無くなってしまうというこの厳しさを感しました。在校生の保護者の皆さんはもっと辛いかもしれない。来年二月二十日に行われる閉校式に向けての準備を粛々と進めておられます。「卓郎さん、閉校式が近づくとつれて閉校するということがだんだん実感として感じられるようになってきてます」とのお声も聞かせていただきました。鞍岡中学校最後の生徒たちには残り少ない日々を有意義に、大切に過ごしていただき、そのコマースコマ、一瞬一瞬が心に残るものになりますようにと切に願うばかりです。多くの卒業生の参加のもと、在校生と一緒に閉校式で声高らかに校歌を斉唱したいものです。鞍岡中学校が母校集う若人 鞍岡中からと。

(住職 松井卓郎)

仏教用語豆辞典

大衆

大衆小説、大衆闘争、大衆食堂、大衆酒場など、一時は「大衆」がはやりました。大衆の喜びそうな」という「コマー

シヤルまで流れました。仏教では、「大衆」はダイシユと読み、大勢の人びとの集団、多勢の仲間、特に、出家修行者である比丘の集団をいいました。お釈迦さまが入滅した後、百年ほどの頃、仏教教団は、戒律をあくまで厳守すべきであるという保守伝統主義的な僧たちとこれに反対する革新的寛容的な修行僧グループとに分裂しました。いわゆる根本分裂です。前者を上座部というのに対し、後者を大衆部とよみました。大衆はそのほか、天台宗では

教団の構成員である学生のことを、禅では修行僧のことをいうようです。この語がやがて、多数の人、民衆の意味で一般に使われるようになりました。後には、労働者・農民などの一般労働階級をいう場合もあるようです。五月一日はメーデーです。大衆の力はいかがですか。(本願寺出版社発行 辻本敬順著 「仏教用語豆辞典」一〇〇 PART 一から)

住職ひとりごと

# 苦悩の有情を捨てずして

十月に入り、めつきり秋らしくなりました。空気は澄んできたし、朝夕は気温も下がりが、稲穂も色づきこうべを垂れて、すでに米刈りが終わつた所もあるし、これから米刈りが本格的になります。

当山も今月下旬からは秋参りを始めます。来月は恩講も始まります。十二月の報恩講に向けて徐々に準備をしながら、寒い鞍岡の冬に向けて、一步一步、歩を進めていかなければなりません。

寒い冬はいやだけど、「冬来たりなば、春遠からじ」と思い、一日一日を過ごしたいものです。

大学で仏教を学び始めて、最初に教えていただいたのが、

生・老・病・死(四苦)の根本苦と愛別離苦・怨憎会苦・求不得苦・五蘊盛苦の四苦、併せて四苦八苦でした。

お釈迦さまはこのような苦から抜け出し樂を受ける、あるいは迷いを転じて悟りを開いていく道を説いてくださいました。

住職として一寺をあずかり、僧侶としての活動をしていると、いろいろなご縁をいただきますが、一番多いのは愛別離苦の苦しみを受けられている姿に出会うことでしょう。

先月もそんなご縁に出会いました。ご家族三人でお住まいのお宅で起こった悲しいお別れ。たった一人のお子さまがお亡くなりになりました。

私は伯母の葬儀で山口県に行き、帰りの車中で連絡を受けました。予定された葬儀当

日に当山の総代会を設定していただくため、葬儀ができるかはつきりしませんでしたので、帰宅後、総代さんたちに連絡を取り、何とか予定された日に葬儀をお受けできるようにになりました。

その後、電話で葬儀は予定通りの日で行えること、臨終勤行は明朝うかがう旨の連絡をしたのですが、電話に出られたお母さまはお声の様子からとても悲しんでいらつしやるようでした。

臨終勤行、お通夜と故人をお送りする一連の仏事をつとめて、葬儀当日を迎えました。葬場勤行も終え、いよいよ、出棺の時を迎えました。しかし、お母さまが棺からお離れにならず、お子さまの名前を呼びながら「ごめんね」。行かんぞー。」と言いつづけられ

ます。周りの人も声をかけることができませぬ。とつとつ、私が「お母さん、お子さまの苦しみは阿弥陀さまがしつかり受け止め、お子さまを御手に抱かれてお浄土へお救い下さいました。辛いでしようけど、出棺しましょう」とお声をかけたことでした。

初七日遠夜法要の時に、あらためて親鸞聖人の次のご和讃をお届けし、

如來の作願をたすぬれば  
苦悩の有情を捨てずして  
苦悩の有情を捨てずして  
大悲心をば成就せり

苦悩のふちにお沈みだったお子さまのために阿弥陀さまは「必ず救う、その身をまかせよ」のご本願、南無阿弥陀仏のお名号による救いを完成されました。どうぞ、娑婆の縁尽きたときに「あなたのおかげで私も慈悲に出会い、お浄土へ救われてくることのできたよ。ありがとう」とご挨拶してください、とお取次申しあげたことです。

## 法語の世界

### 〈原文〉

信をとらぬによりてわるきぞ。ただ信をとれと仰せられ候ふ。善知識のわるきと仰せられけるは、信のなきことをわるきと仰せらるるなり。しかれば、前々住上人(蓮如)、ある人を、言語道断わるきと仰せられ候ふところ、その人申され候ふ。なにことも御意のごとくと存じ候ふと申され候へば、仰せられ候ふ。ふつとわるきなり。信のなきはわるきはなきかと仰せられ候ふと云々。  
(蓮如上人御一代記聞書 百八十六)

### 〈現代語訳〉

「信心を得ていないから悪いのである。とまかくまず信心を得なさい」と、蓮如上人は仰せになりました。上人が悪いことだといわれたのは、信心がないことを悪いといわれたのです。このことについて、次のような話があります。上人がある人に向かって、「お前ほど悪いものはない。言語道断だ」と仰せになったところ、その人は、「何ことも上人のお心になうようにと思っておりますが、悪いところがあるのでしょうか。」とお答えしました。すると上人は、「まったく悪い。信心がないのは悪くはないのか」と仰せになりました。

### 2015 (平成27)年 恩講・秋参り日程(予定)のお知らせ

本年の恩講・秋参りの日程についてお知らせします。  
恩講の期日が未定の地区(矢惣園・折立・深谷、倉本、古賀西)は早目に日程の相談をお願いします。  
秋参りは過去の状況を参考に大まかな予定をたてました。あくまでも予定です。葬儀、仏事や恩講が入りますと日程を変更します。遠方(熊本市、益城町、御船町、宇城市、高千穂町、延岡市、日向市、宮崎市)と中入・大平、渡瀬、山都町の秋参りは八ガキでお参りの日を連絡します。  
お茶の接待はご遠慮申し上げます。

| 恩講           | 秋参り                   |
|--------------|-----------------------|
| 11月 8日 波帰    | 10月20日 協和・長崎、芋の八重、小切畑 |
| 9日 広瀬        | 21日 祇園町、芋の八重、矢惣園上     |
| 10日 大石の内     | 22日 丁子、中村、笠部          |
| 12日 小川       | 26日 中園、東光寺、寺村         |
| 14日 古賀東      | 27日 東光寺、寺村、中園         |
| 17日 本屋敷      | 28日 予備日               |
| 18日 水流・木合屋   | 29日 予備日               |
| 19日 長峯       | 11月14日 一の瀬            |
| 20日 揚        |                       |
| 22日 スクナ原・原尾野 |                       |
| 23日 萩原の上     |                       |
| 24日 道谷       |                       |
| 12月 4日 荒     |                       |